

アルタイ山脈のユキヒョウと遊牧民

—生態観察・獣害対策・伝承知の複合型生物誌の研究—

早稲田大学 高等研究所 助教
ヒマラヤ保全協会 会長
博士（農学）

相馬 拓也



WIAS

早稲田大学高等研究所
Waseda Institute for Advanced Study

目 次



撮影：多摩動物公園

I. はじめに

問題の所存

II. ヌキヒョウの生態観察

カメラトラップ法と記録映像化

III. ヌキヒョウをめぐる家畜被害

獣害対策と家畜被害の規模・推移

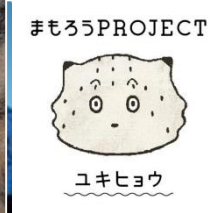
IV. ヌキヒョウの民俗学

狩猟方法・体験、エコ・ナラティブのオーラルヒストリー

V. まとめ

ヌキヒョウと遊牧民の保全生態学





【問題の所存】

- ユキヒョウによる**家畜襲撃** ⇔ 報復による**密猟・私的駆除**の発生
[Johanson, et al. 2015; Li, et al. 2013; Mishra 1997; Mishra, et al. 2003; Bagchi & Mishra 2006]

【課題・要請】

- 獣害対策の**社会的インフラ**の整備
- 密猟の**厳罰化**への法整備
- 遊牧民とユキヒョウの**持続可能な共生圏**の確立

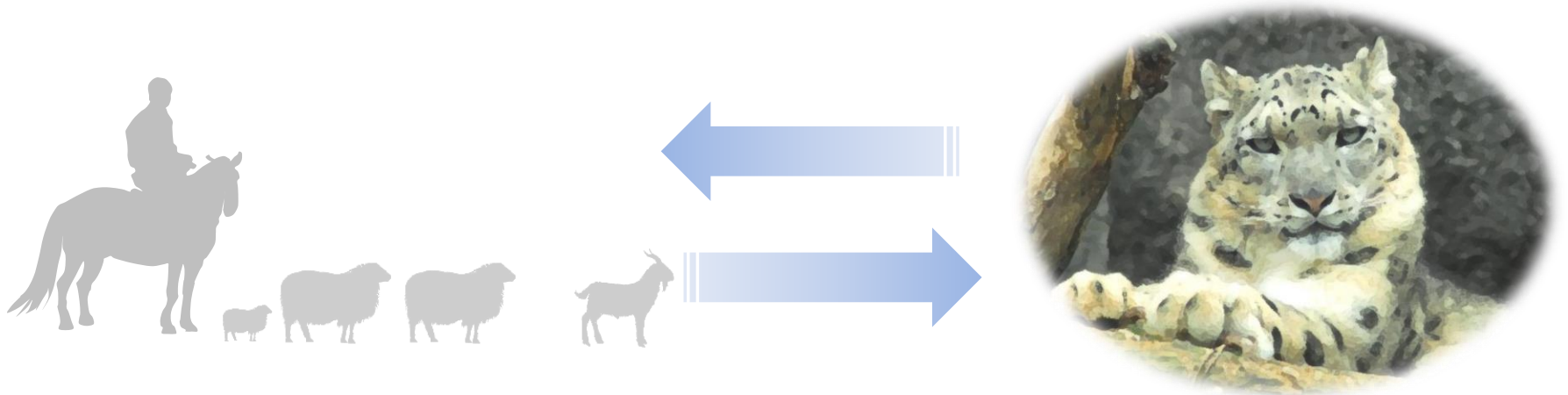
【方法】

(口承伝達、伝説、民俗儀礼)

- ユキヒョウをめぐる**文化的積層のドキュメンテーション**
- カメラトラップ法による**生態観察**
- 家畜**被害（頭数・経済規模）**の現状把握
- ユキヒョウの調査の**映像記録（ドキュメンタリー番組制作）**



🐾 ヒトとユキヒョウの関係性の研究



成熟したユキヒョウの研究に文化的重層性と文化資源の価値を見出す

【調査期間】

- **第1期：2016年8月6日～22日**
 - ➡ 獣害・家畜被害等の構成的インタビュー調査(n=117世帯)
- **第2期：2017年1月23日～2月10日**
 - ➡ 生態観察・映像記録

【調査地】

- SS1：ホブド県 ムンフハイルハン郡、チャンドマニ郡
- SS2：バヤン・ウルギー県 ボルガン郡



Bushnell



Ltl-Acorn
6210MC



Vixen
GEOMA II

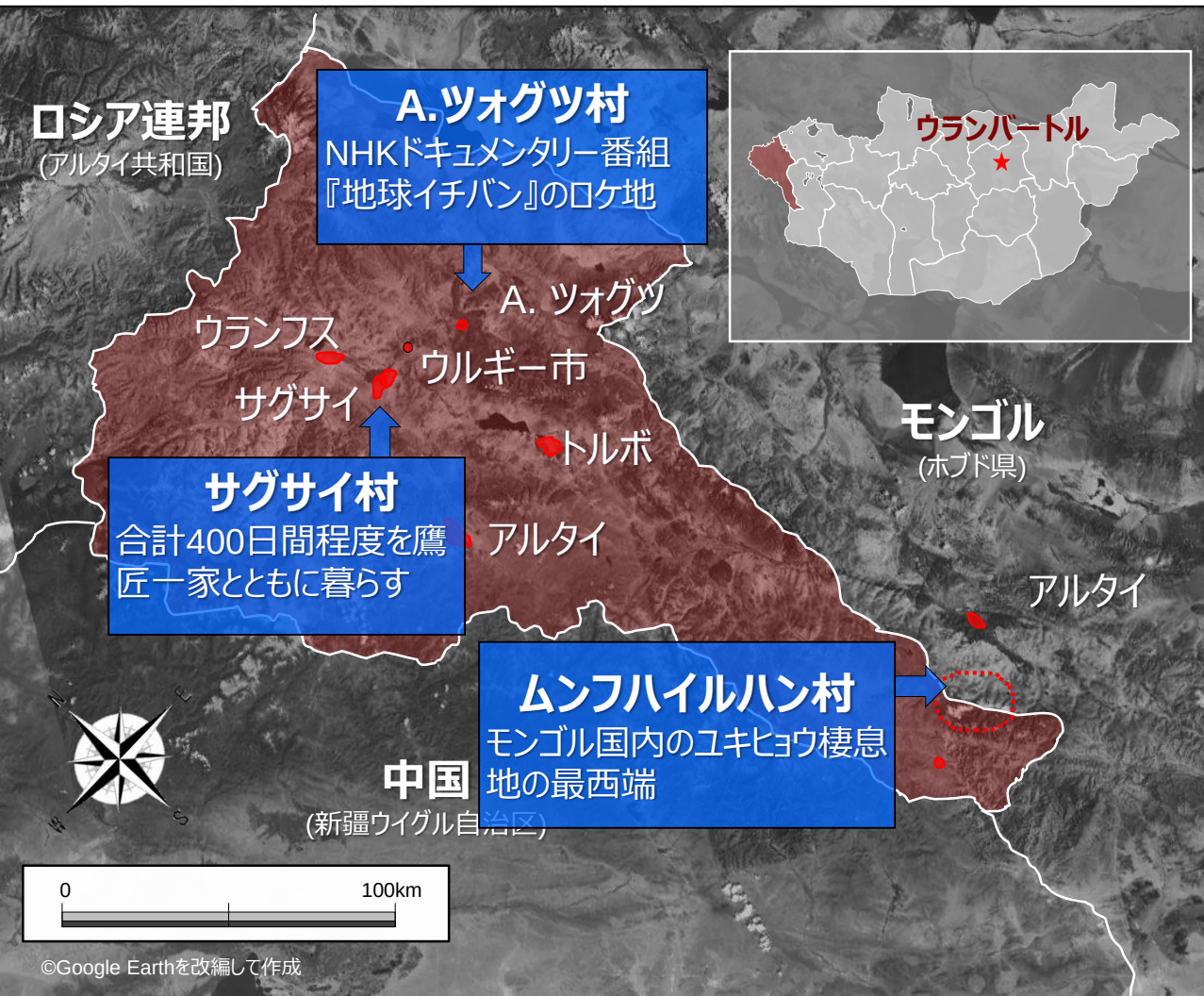


Sony
α7s



DJI
Mavic PRO

はじめに①：調査地モンゴル西部地域の概要 ホブド県の地図

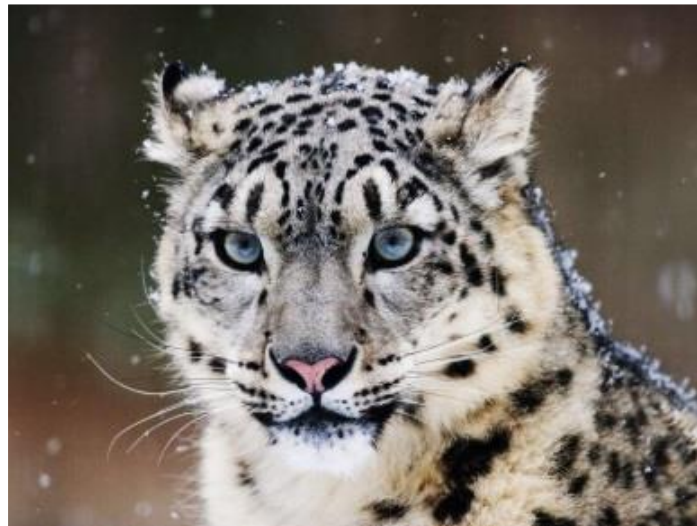


バヤン・ウルギー県の概要 (Баян-Өлгий)

県域:	45,704km ² (デンマーク/スイスと同程度) (九州+沖縄本島と同程度)
設立:	1940年より
人口:	約93,017人 (2009年) (モンゴル国内人口の約3.3%)
人口密度:	2.0 人/ km ² (東京都: 14,389人/km ²) (日野市: 6,647人/km ²)
エスニック・グループ:	90%以上がカザフ人 その他、ウリヤンハイ人 トルグート人など

ユキヒョウのファクト・ファイル

ユキヒョウの基礎データ



ユキヒョウの基礎データ

A. 約 3,920
～6,392 頭

A. 約 600 頭

A. 世界12カ国

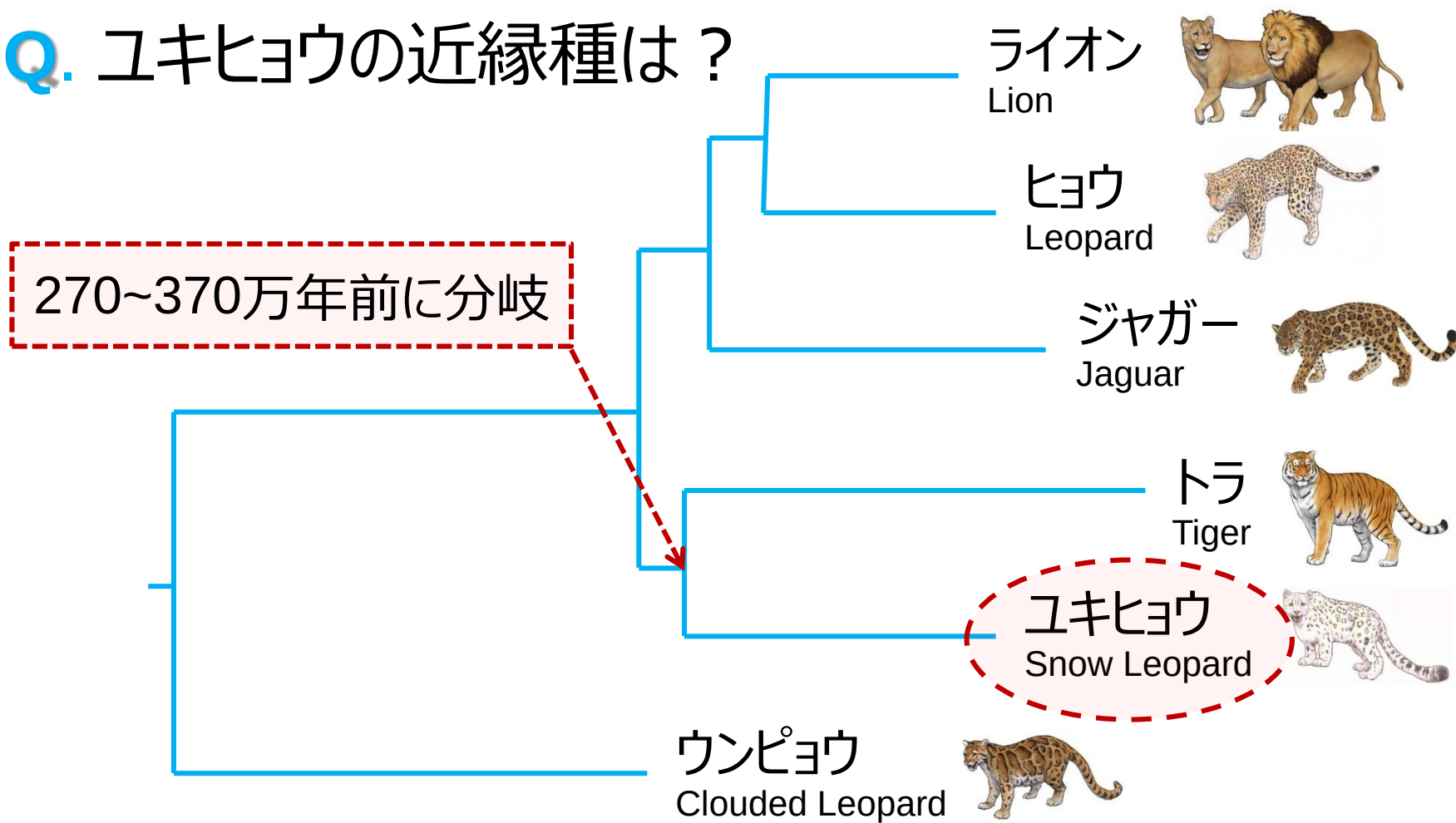
[モンゴル, カザフスタン, キルギス, 中国, タジキスタン, アフガニスタン, ネパール, ブータン, パキスタン, インド, ロシア]

A. 1～2 頭 / 100 km²

A. 約 500～900 頭



Q. ユキヒョウの近縁種は？



Q. ユキヒョウの食餌は？



ラクダ



オオカミ



ヤギ



ウマ



ヤク



ヒツジ



ネズミ



マーモット



ウサギ



野鳥



Q. ユキヒョウの取引価格は？

A. 毛皮 1頭or一部／

約 36～600 USD

平均価 約 186 USD

[1990～2002年摘発事例にもとづく]

表1 モンゴルで押収されたユキヒョウの毛皮

年	没収された毛皮 (枚数)
～1992年	49
1993年	15
1994年	19
1995年	25
1996年*	不明
1997年*	不明
1998年	1
1999年*	不明
2000年	3
2001年	1
2002年	3
合計	116件

【出展】 Theile 2003: p.33(Table6) を改編して掲載
General Customs Department of Mongolia, 2002
Snow Leopard Trust (Mongolia Office)

* 情報不備のため不明



▲ユキヒョウ4頭分で作ったとされる毛皮の外套
(2006年10月／キルギス共和国)

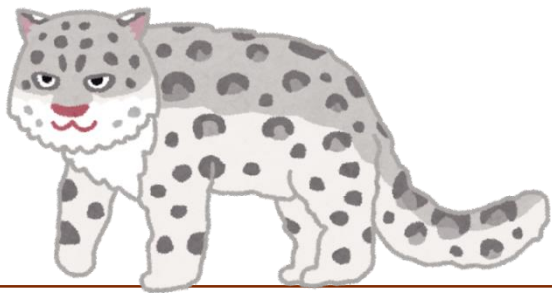
課題① ヌキヒョウの生態観察

観察調査とカメラトラップ法の結果



【調査項目】

- ❧ 定点観察
- ❧ ユキヒョウのライフサイン（糞、足跡、マーキング箇所）の探索
- ❧ 無人トラップカメラの設置・生体撮影
- ❧ ドローンを用いた遠隔地の探索・観察















稲田カメラマン

冬季調査中
の発表者



Sonyのナイト・
ビジョンカメラa7s
で夜間観察







ユキヒョウ営巣地点
(推定)



家畜の
大量死亡地点



人、足跡



ボルガン河

ベースキャンプ★



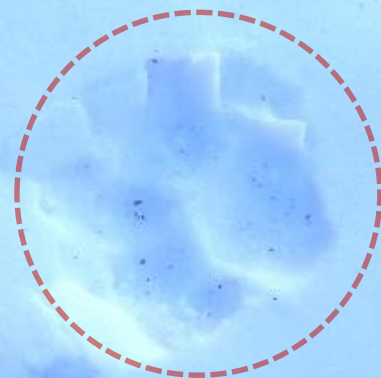




































※動物カメラマン 稲田喬晃氏 撮影





※動物カメラマン 稲田喬晃氏 撮影





※動物カメラマン 稲田喬晃氏 撮影





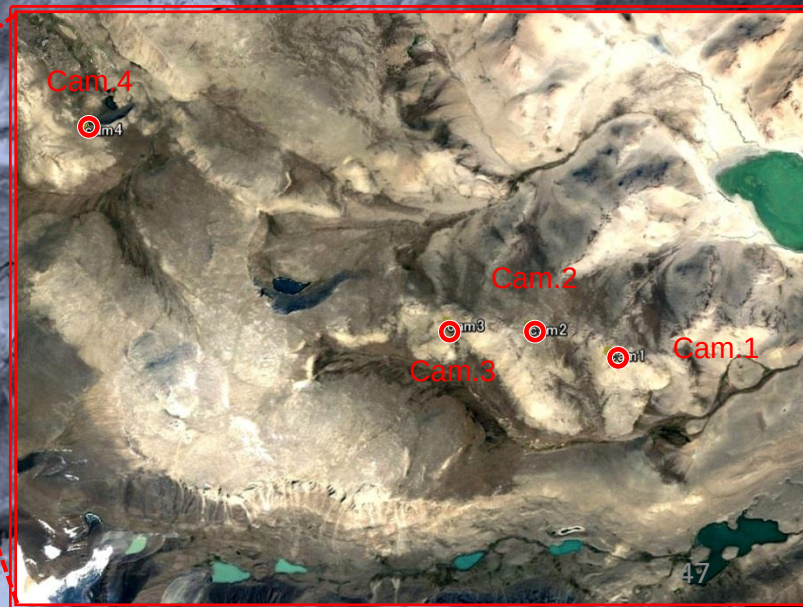
SS2
ハトースイ地点



ムンフハイルハン
モンゴル国内第3位の高峰
4,231m



SS1
フノール地点





▲トラップカメラ設置地点ムンフハイルハン山



▲トラップカメラの設置風景



2016-02-13 7:12:21 AM M 1/5

1 -2°F



50

RECONYX

HC500 HYPERFIRE











2016-03-07 6:52:36 AM M 4/5

6°F



56

RECONYX

HC500 HYPERFIRE



















2016-03-07 6:52:47 AM M 4/5

6°F



66

RECONYX

HC500 HYPERFIRE









※ときおり赤外線カメラの可視線に関心を示す



※ときおり赤外線カメラの可視線に関心を示す



※ときおり赤外線カメラの可視線に関心を示す



※ときおり赤外線カメラの可視線に関心を示す



※ときおり赤外線カメラの可視線に関心を示す



※ときおり赤外線カメラの可視線に関心を示す



※ときおり赤外線カメラの可視線に関心を示す



※ときおり赤外線カメラの可視線に関心を示す



※ときおり赤外線カメラの可視線に関心を示す



※ときおり赤外線カメラの可視線に関心を示す



※ときおり赤外線カメラの可視線に関心を示す









※岩場の傾斜面への尿スプレー（マーキング）



※岩場の傾斜面への尿スプレー（マーキング）



※岩場の傾斜面への尿スプレー（マーキング）



※岩場の傾斜面への尿スプレー（マーキング）



※岩場の傾斜面への尿スプレー（マーキング）



※岩場の傾斜面への尿スプレー（マーキング）

20S



01-01-2017 01:42:05

※平地での尿スプレー（マーキング）



※平地での尿スプレー（マーキング）



※尿スプレー（マーキング）箇所の見回りが頻繁に行われる



※モウコヤマネコ



※モウコヤマネコ

※モウコヤマネコ



Bushnell

10-15-2016 20:36:45



※アカギツネ



※クロテン





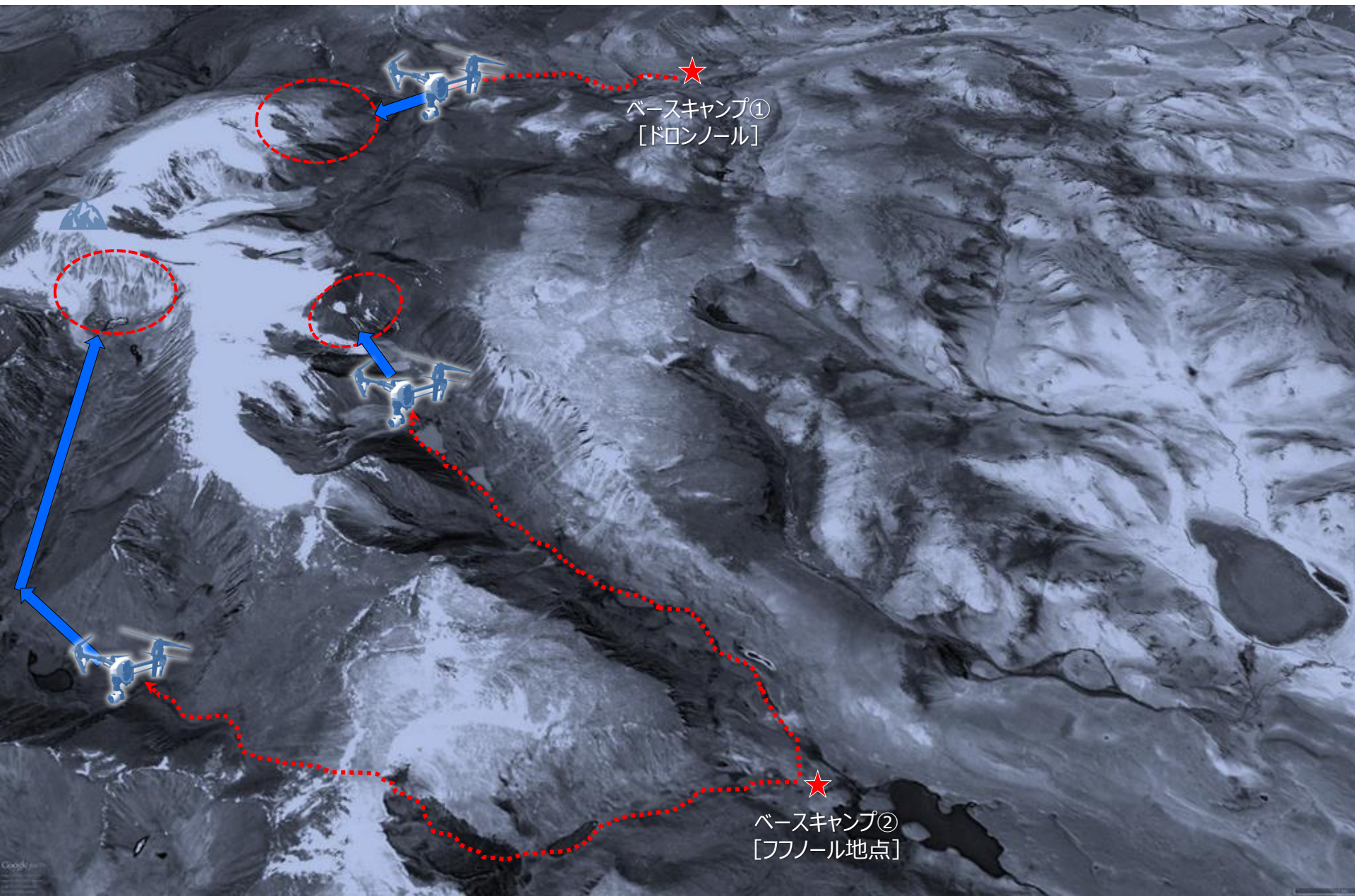
20S

※アカギツネ、クロテン、アルタイセツケイ、ノウサギ



12-14-2016 05:22:43

ドローンを用いたユキヒョウの探索







ユキヒョウ調査の視覚化① ドキュメンタリー番組の制作



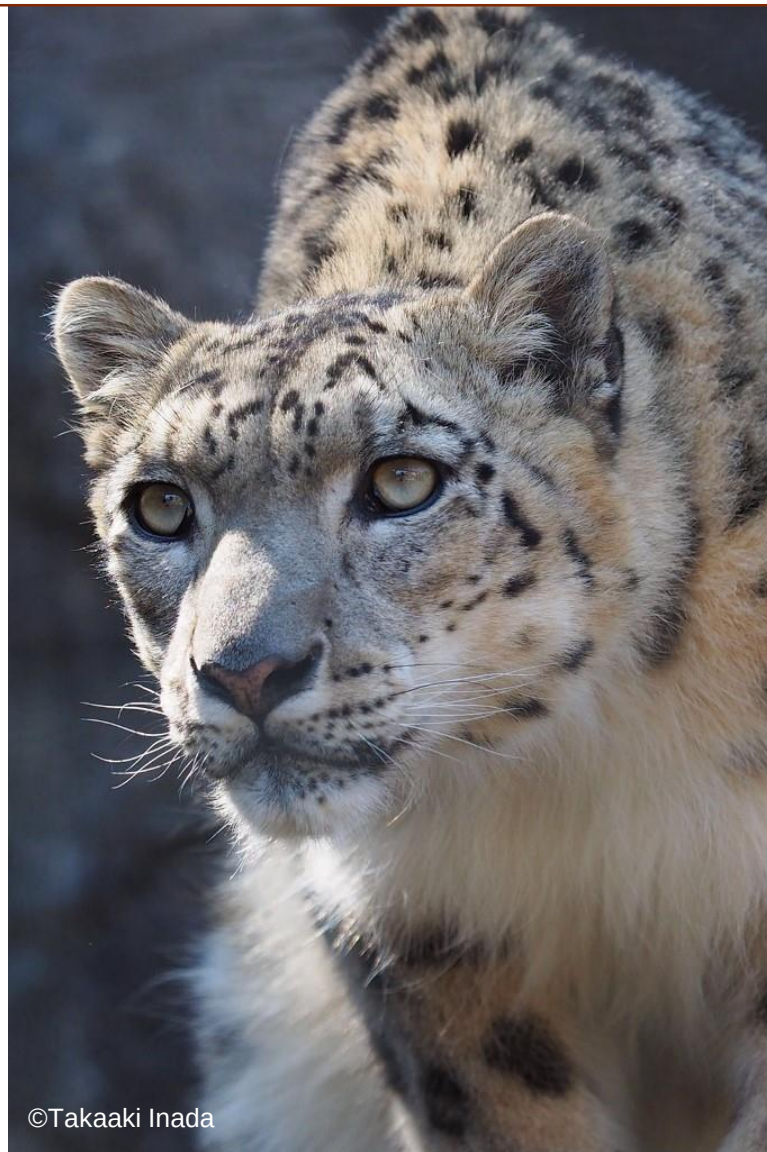
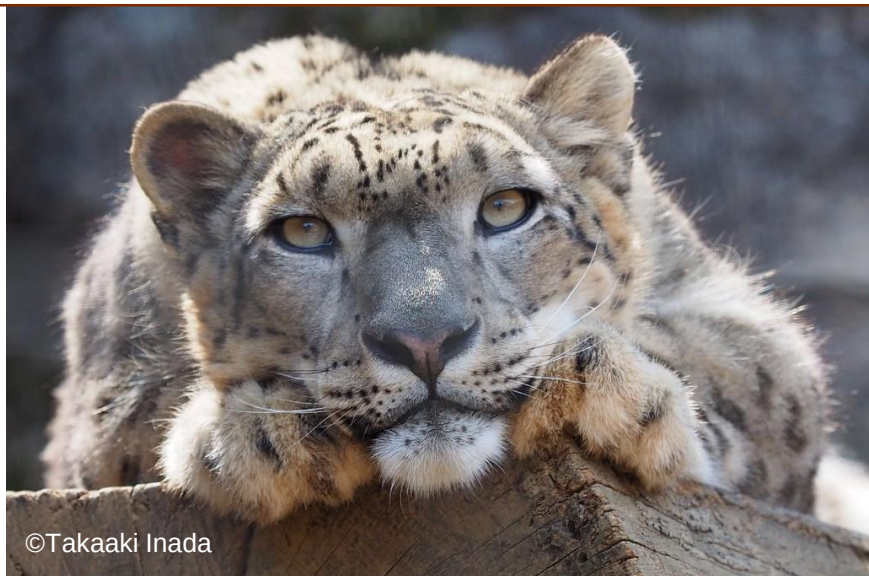
▲ユキヒョウ観察小屋での観察作業



▲ユキヒョウのライフサインの追跡調査



ユキヒョウ調査の視覚化② 写真資料集・写真展示



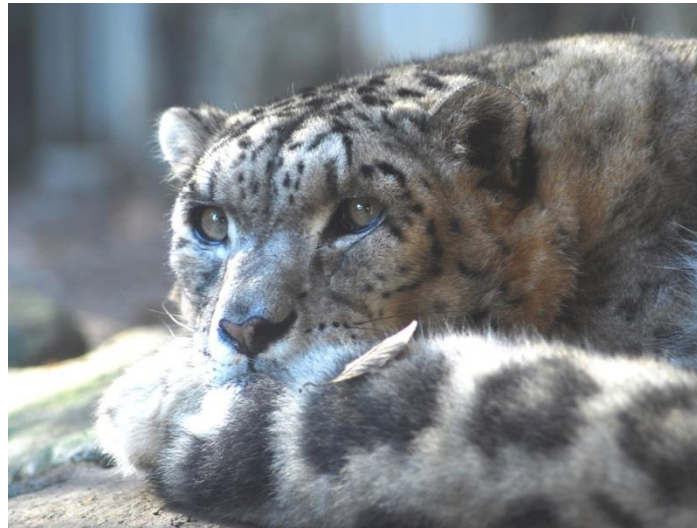
※動物カメラマン 稲田喬晃氏 撮影



▲多摩動物公園 2017年3月24日撮影

課題② ヌキヒョウをめぐる家畜被害

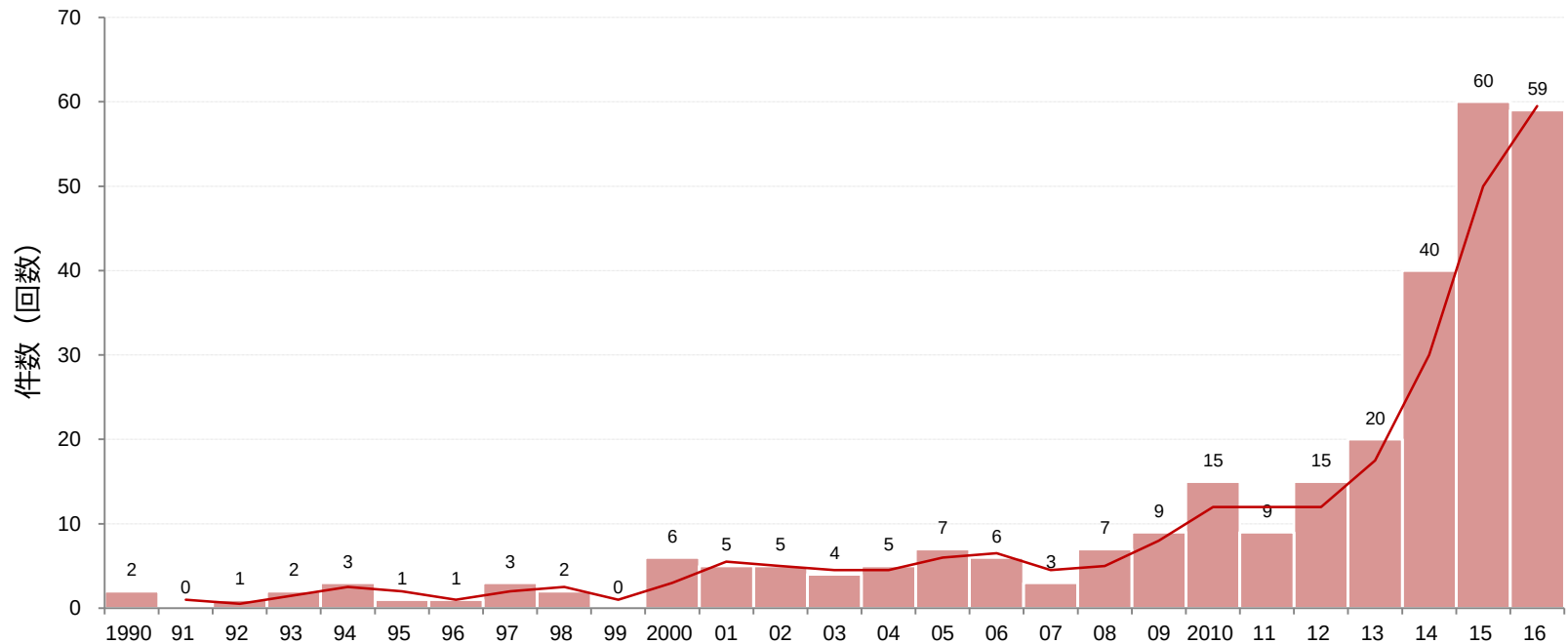
獣害対策と家畜被害の規模・推移



ユキヒョウ関連事故の推移

ユキヒョウ関連事故（目撃・遭遇・家畜被害）件数の推移

[インフォーマントn=117名／合計件数n=290件]



ゾド災害による歴史的被害

ゾド災害年

災害とは関係のない近年の増加

【傾向】

- ➡ ゾド災害と事故増加に相関関係
- ➡ 2011年以降に事故が急増

ユキヒョウによる馬の襲撃事例①

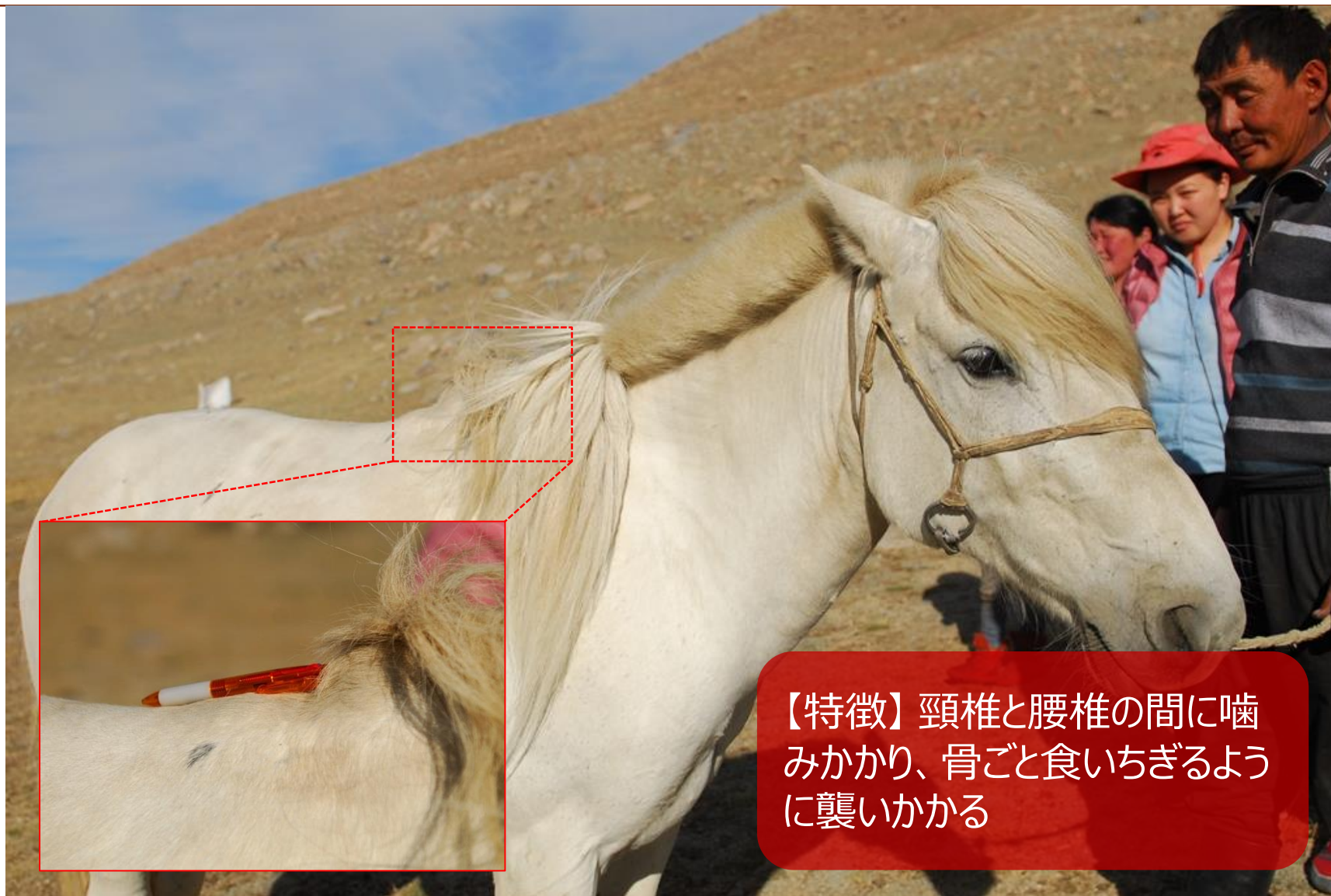


【特徴】頸椎と腰椎の間に噛みかかり、骨ごと食いちぎるように襲いかかる

▲A氏所有の1歳馬

ムンフハイルハン郡フフノール夏牧場（2016年8月10日）

ユキヒョウによる馬の襲撃事例②



【特徴】頸椎と腰椎の間に噛みかかり、骨ごと食いちぎるように襲いかかる

▲B氏所有の5歳馬
ムンフハイルハン郡フフノール夏牧場（2016年8月10日）

ユキヒョウによる馬の襲撃事例③



【エコ・ナラティヴ】

■ ユキヒョウは後ろから食いかかり、オオカミは喉笛から食いかかる。

■ ユキヒョウは毛皮を残すように食べる。獲物の胴体に頭と体を突っこんでむさぼる。

▲ユキヒョウに襲われた約6月齢の仔馬

ユキヒョウによる野生動物の襲撃事例

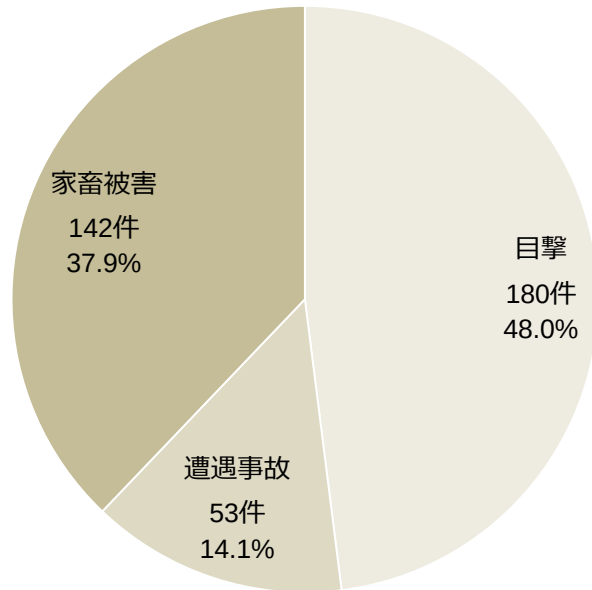


▲ユキヒョウに捕食されたと思われるアイベックス

ユキヒョウ関連事故の特性

a. ヌキヒョウ関連事故の内訳

[合計件数 n=375 / インフォーマント n=105]

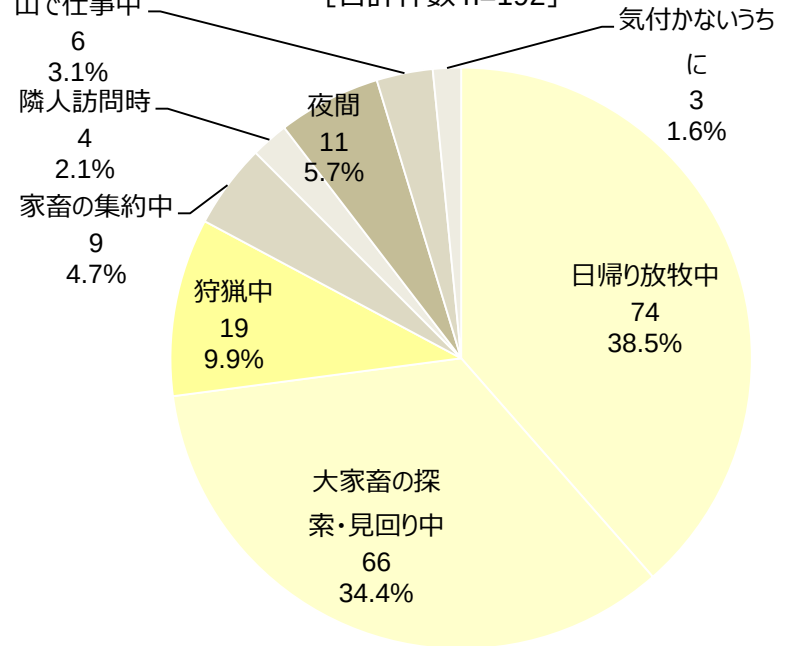


【傾向】

➡ 一人当たり3.57件程度のユキヒョウ関連事故の経験あり

b. 目撃・遭遇・家畜被害時の状況

[合計件数 n=192]



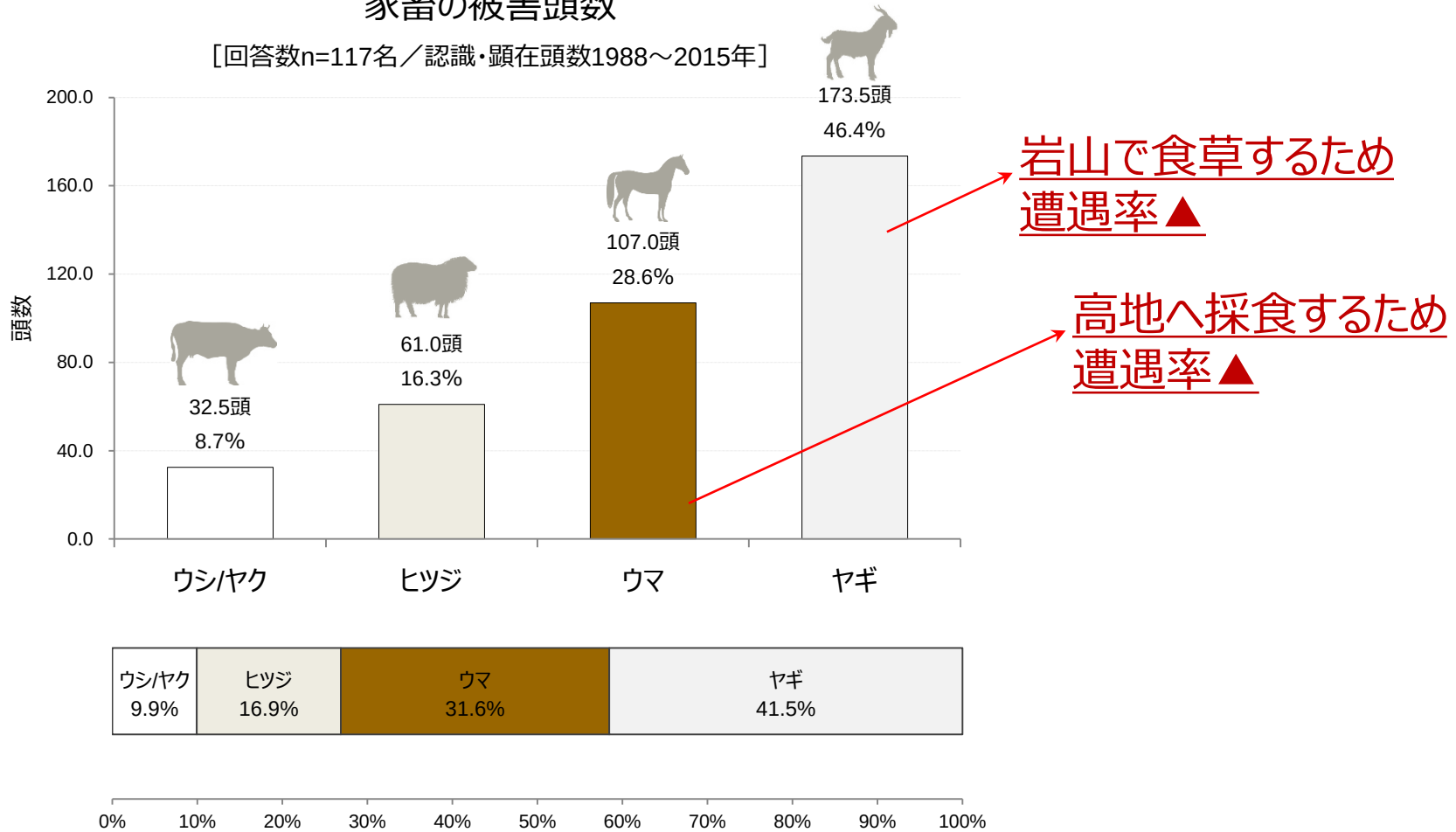
【傾向】

➡ 日々の牧畜で不可欠な高地作業での目撃・遭遇が多数

家畜被害の特徴

家畜の被害頭数

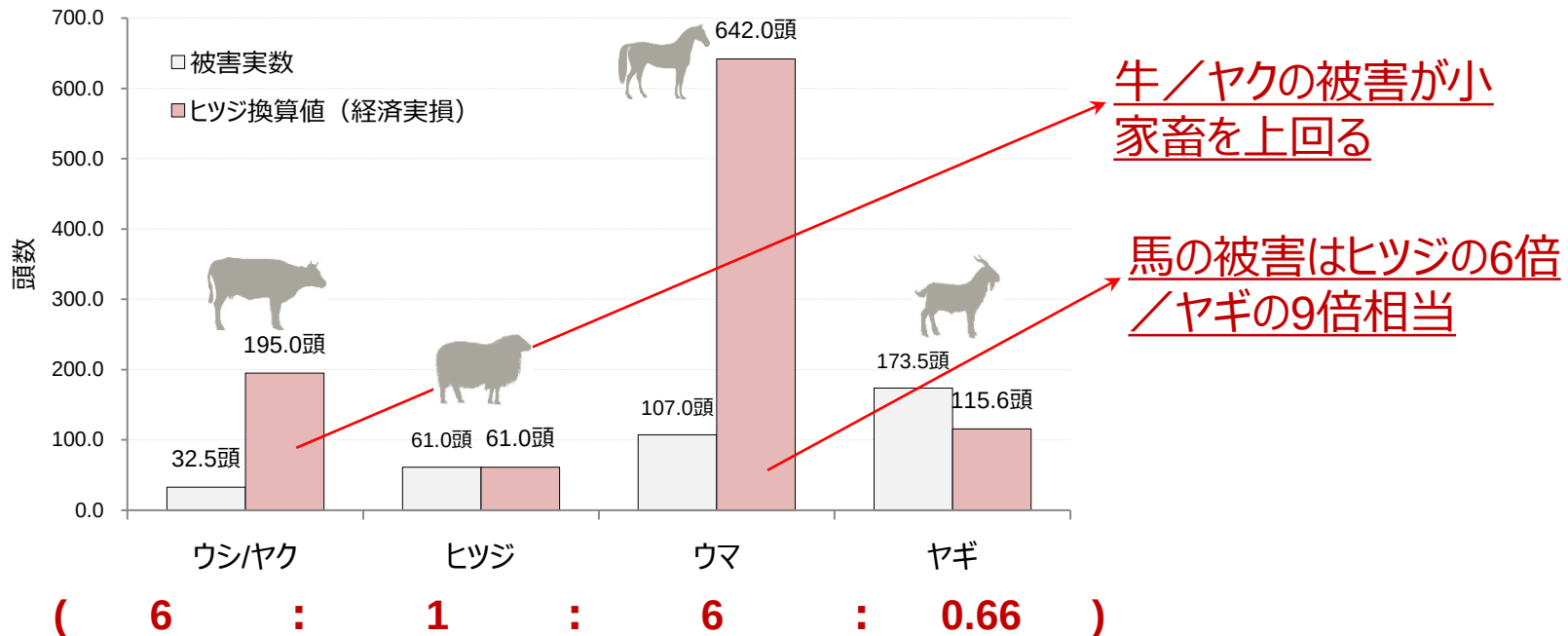
[回答数n=117名／認識・頭数1988～2015年]



家畜被害の特徴

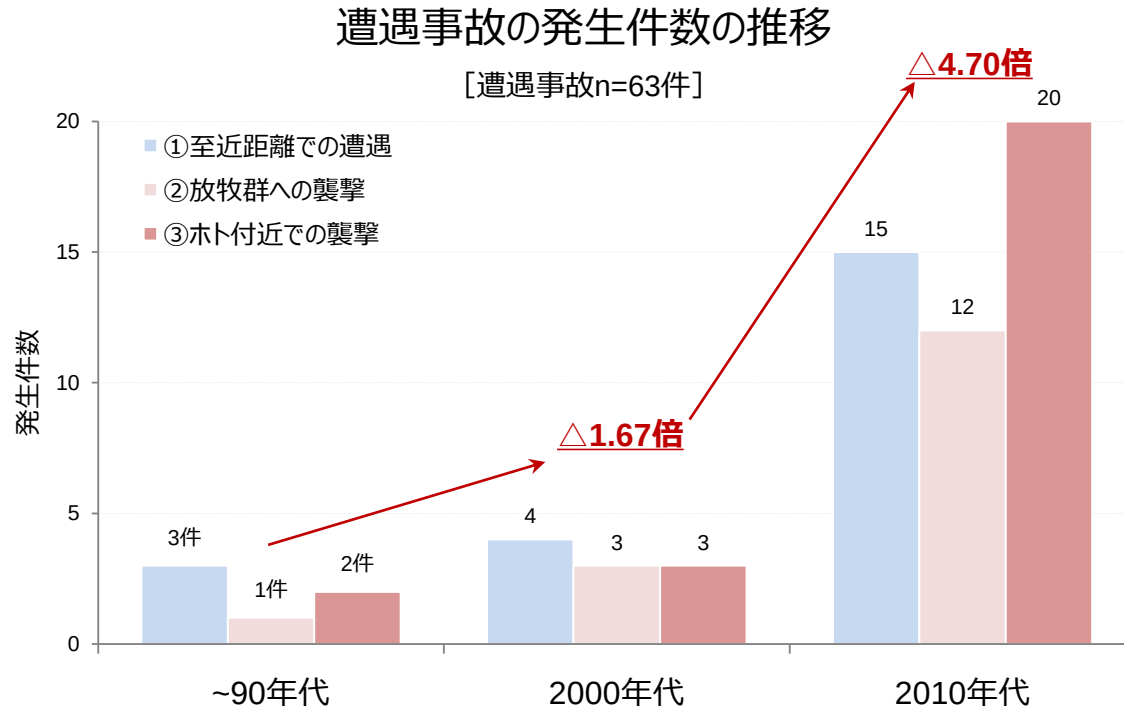
家畜被害の実数とヒツジ（ボグ）換算値

[被害実数および経済的損失の心理的指標値]



➡馬と牛の被害が心理的・経済的な喪失感につらなる

宿営地（ホト）付近での家畜襲撃の増加

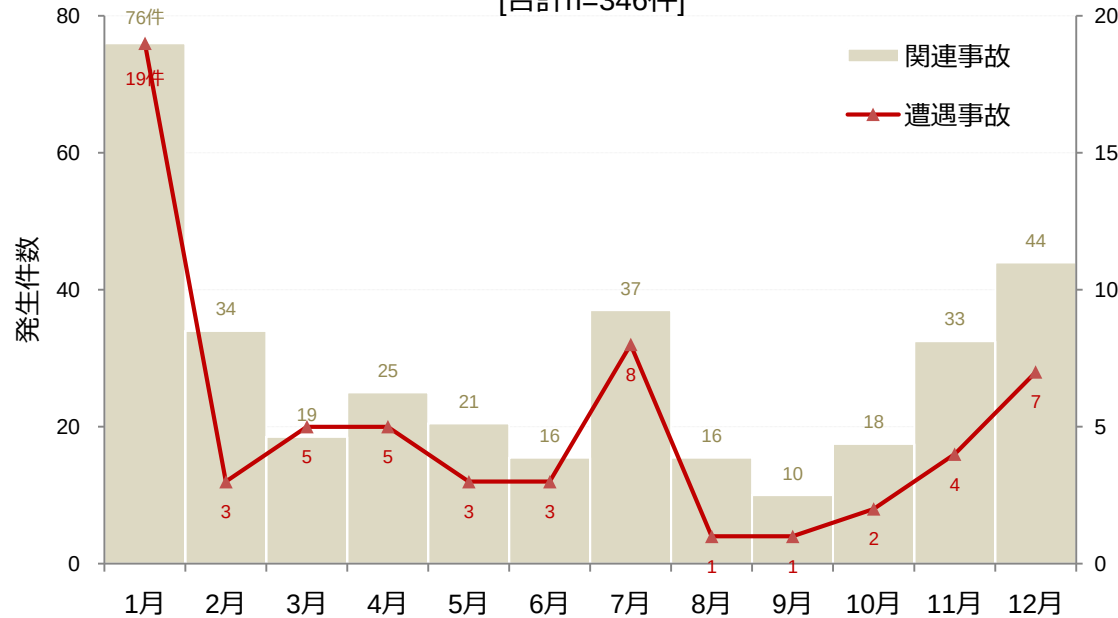


- ➡ 宿営地まで来て家畜を襲った例が20/25件が2010年以降に発生
- ➡ 被害は2015年8件／2016年8件と大多数が過去2年以内に発生

ユキヒョウ関連事故の月別推移

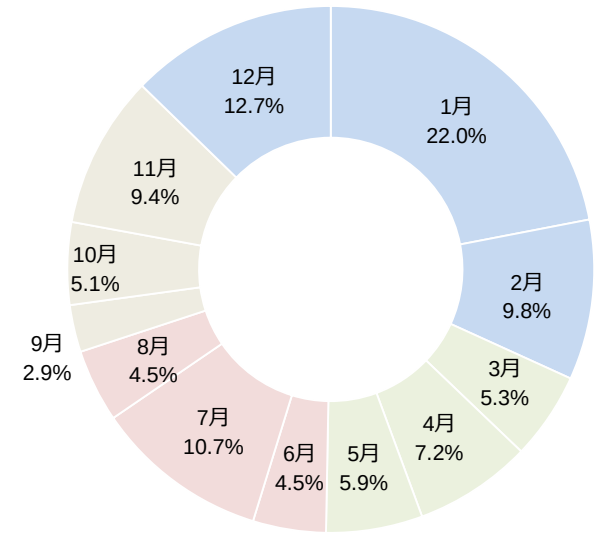
ユキヒョウ関連事故の月別件数

[合計n=346件]



ユキヒョウ関連事故の月別発生頻度

[合計n=346件]



➡ 発生は1月が最多で、冬の3ヵ月間で45.5%

➡ 冬だけではなく、7月にも発生のピークがある

課題③ ヌキヒョウの民俗学

狩猟方法・体験、エコ・ナラティブのオーラルヒストリー





▲トゥブ県チンギスフレー・リゾートの秘蔵レストラン（2017年5月5日撮影）

ユキヒョウ送りの儀①

～ユキヒョウを殺した際に「たたり」「ハル・モルティ（黒い足跡）」を回避するために執り行われる儀礼～

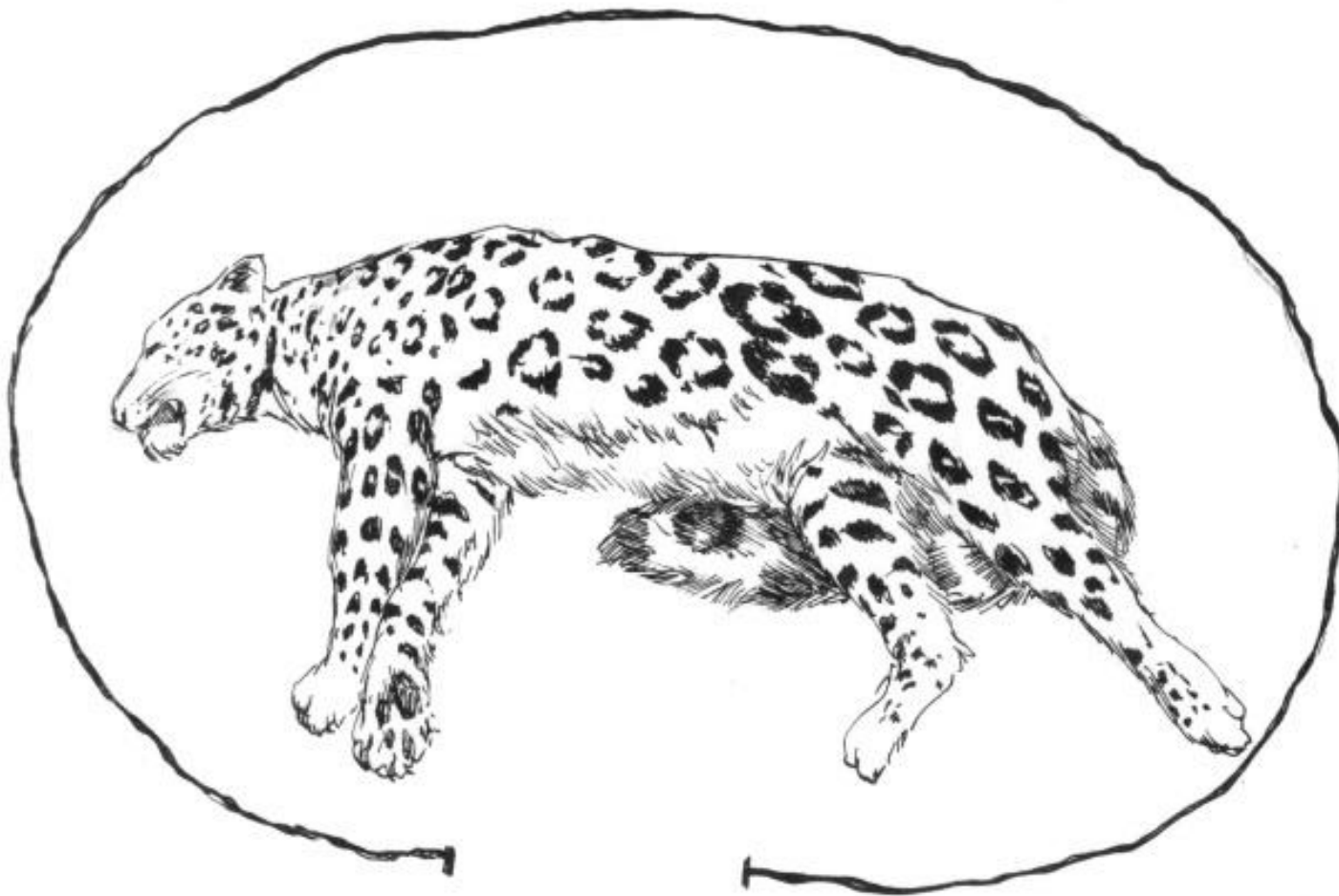
ユキヒョウ送りの儀①

自然界への地縛を再現した儀礼

ユキヒョウが死んだとき、遺体の周りにおおきめの輪を鞭か、木で描き、扉の部分を開けておく。ユキヒョウの遺体の形を地面に縁取って描く。ハンターは常に火を携えておかなければならない。4本の足の裏の毛皮を火で焼く。ユキヒョウの遺体を描いた輪や縁取りを消さないように、輪の外へ出す。これら儀礼の後、後ろ向きに後ずさりして扉部分から出る。扉の部分に線を描く。ひとつは、ユキヒョウの絵／生き姿を描くことで、ユキヒョウはまだ自然界にいらることを示している。

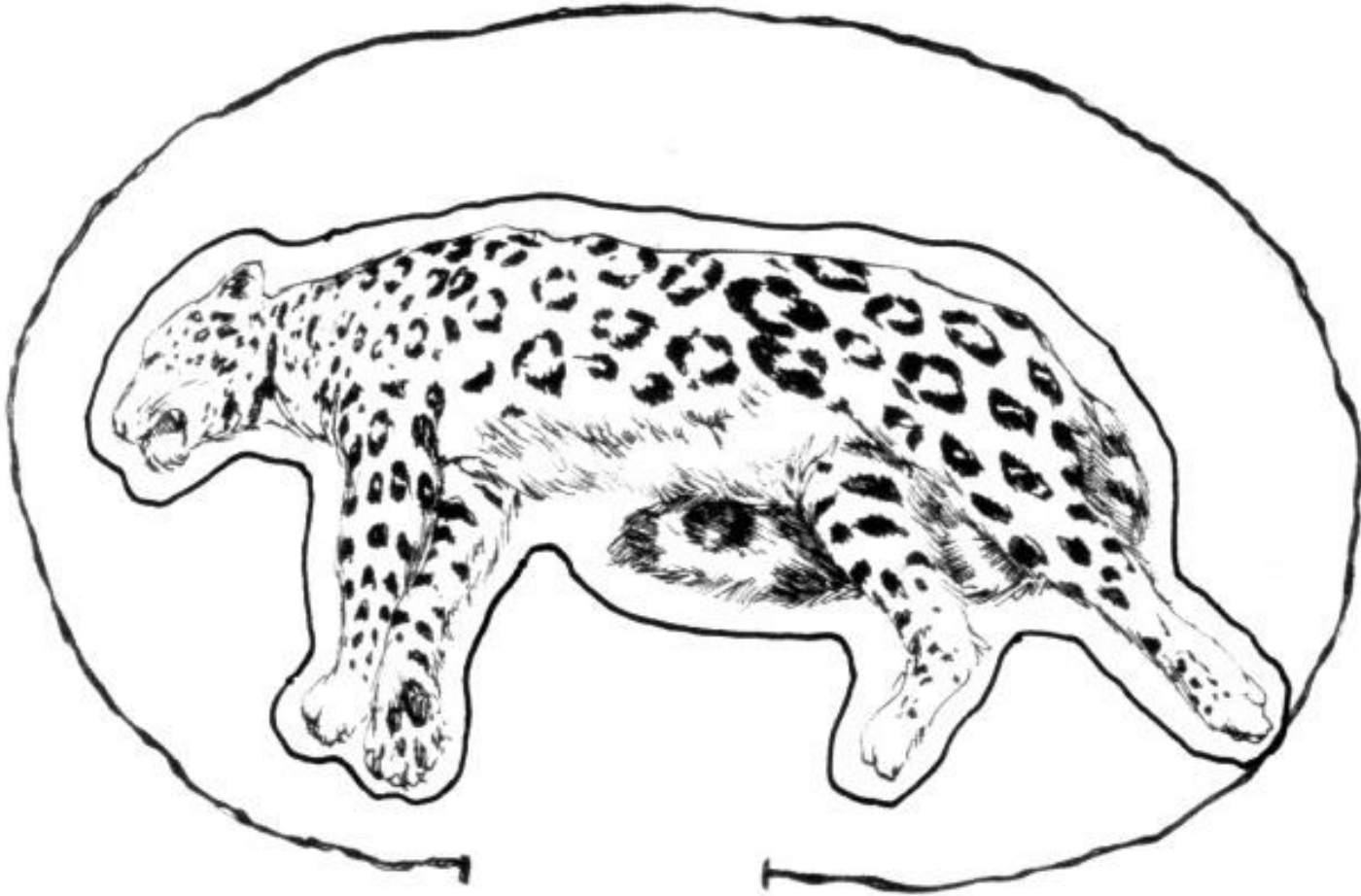
[MH-28氏談 2016.8.20]

ユキヒョウ送りの儀①



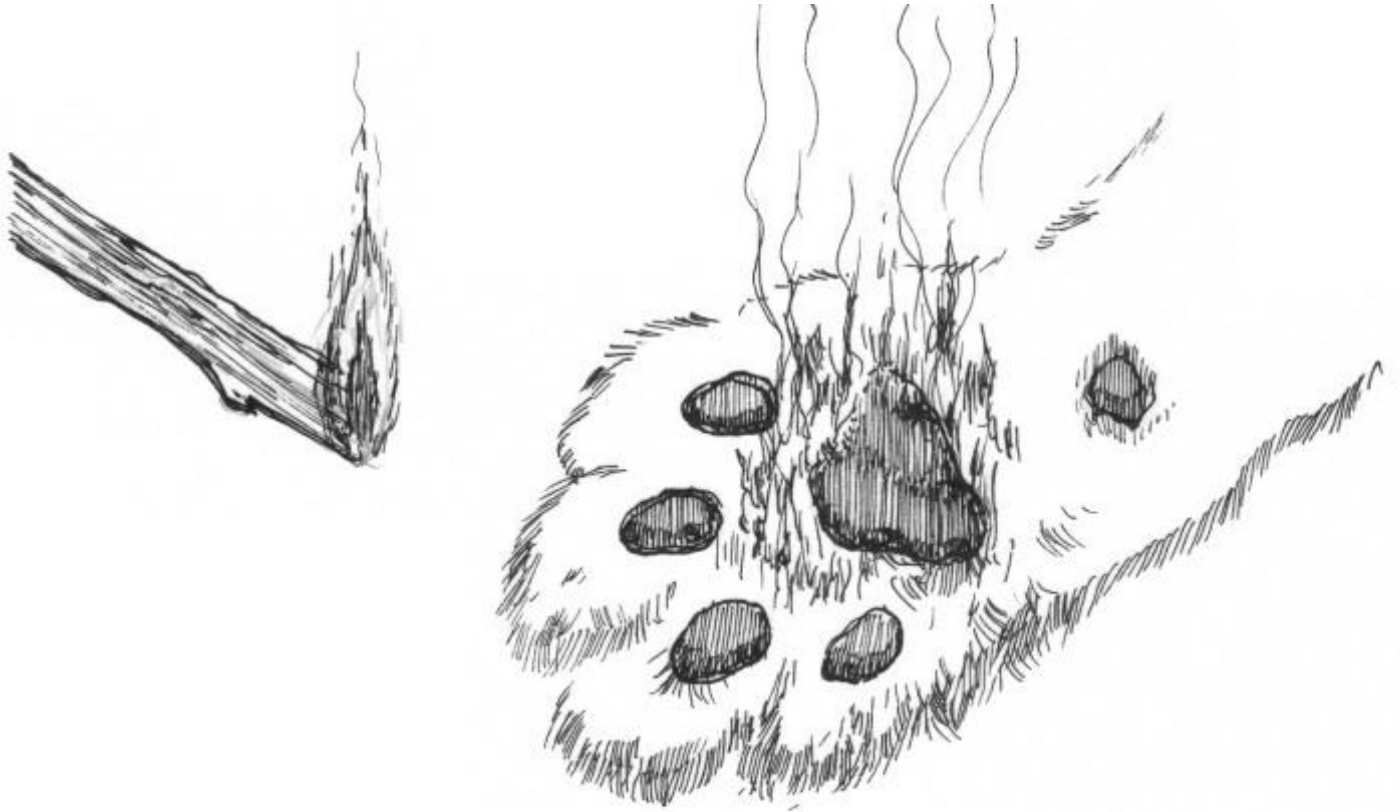
➡ ①ユキヒョウの周りに輪を描く

ユキヒョウ送りの儀①



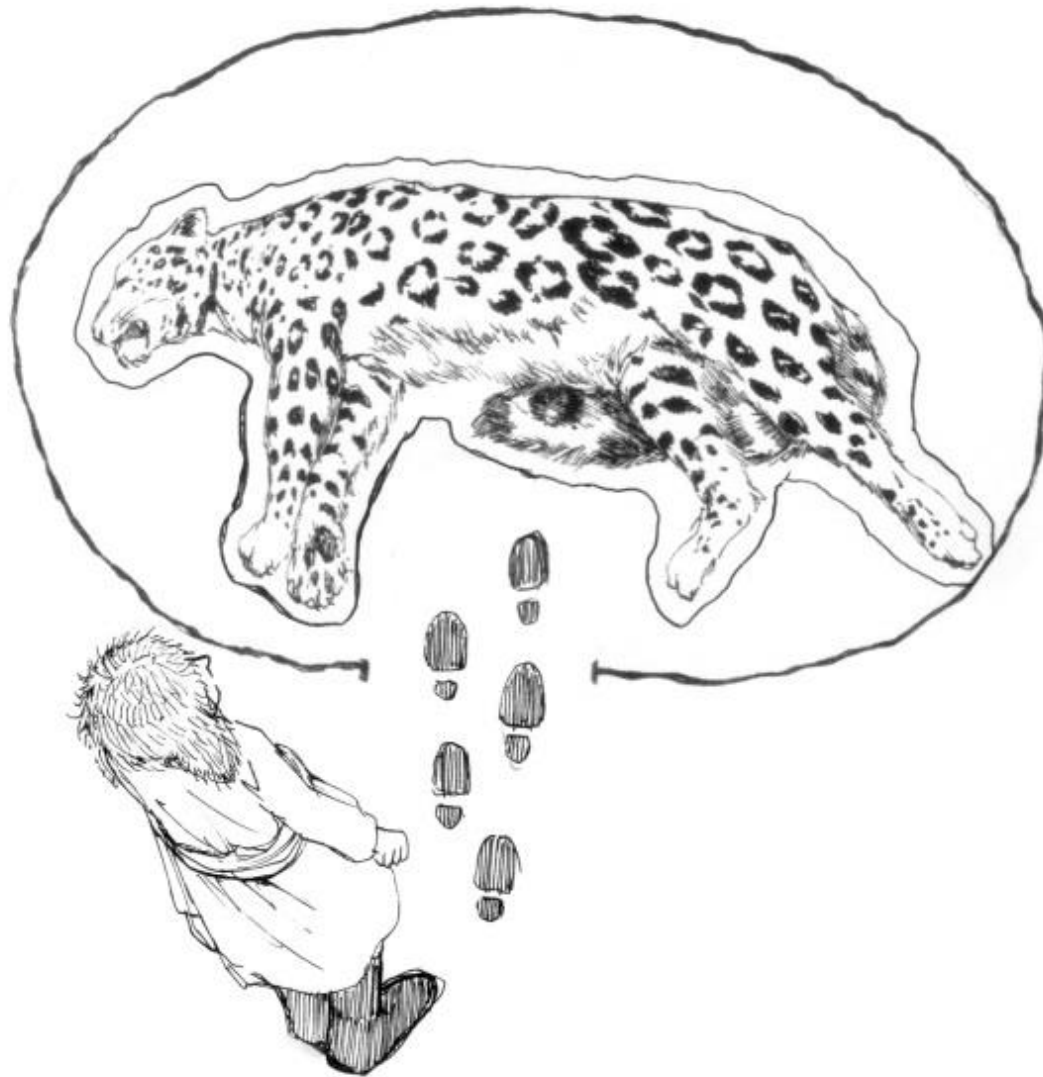
➡ ②ユキヒョウの亡骸を縁取る

ユキヒョウ送りの儀①



➡ ③足裏の毛を焼く

ユキヒョウ送りの儀①



➡ ④輪から後ろ歩きで出る

ユキヒョウ送りの儀①



➡ ⑤ 出口に線を引き封じる

ユキヒョウ送りの儀②

～「黒い足跡」を「赤い足跡」にすることによる「たたり」の回避儀礼～

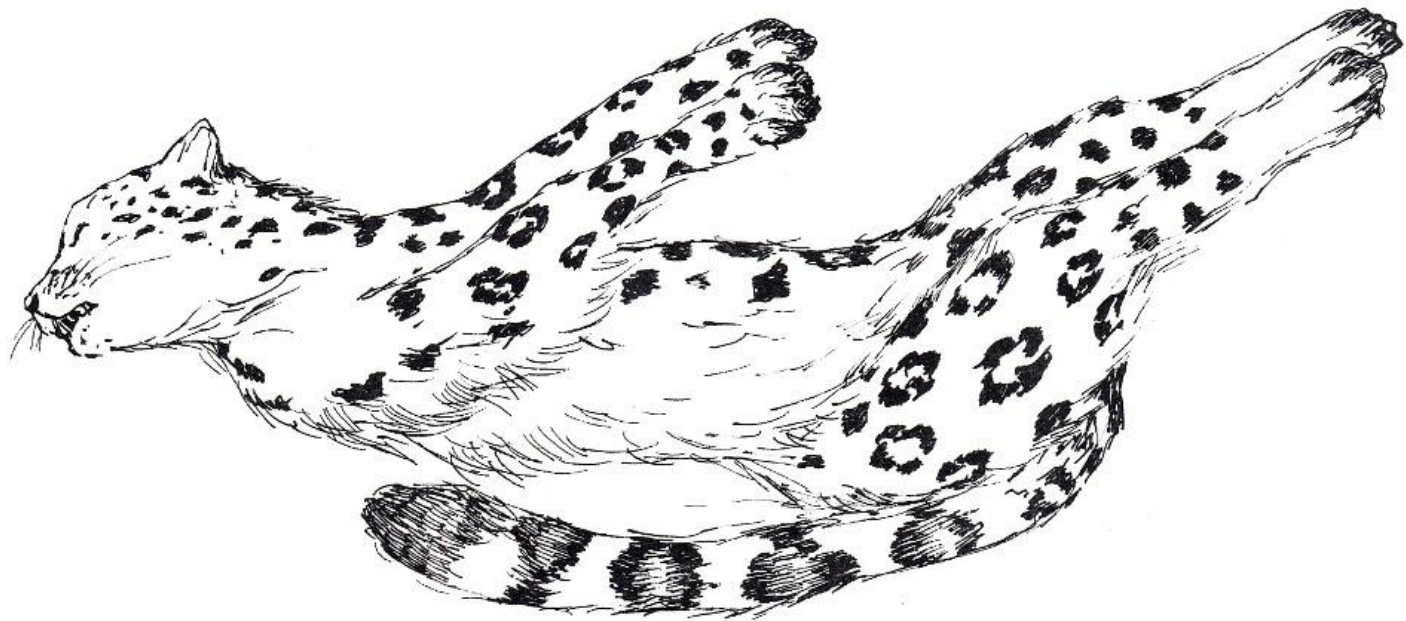
ユキヒョウ送りの儀②

血の足跡による呪いの回避儀礼

ユキヒョウを殺した後は、ユキヒョウから流れる血に4本の肉球を浸し、全部を後ろ向きにねじって頭と反対の方向に向けて地面にスタンプを押すよう押しつける。ユキヒョウを道に迷わせるための、殺したハンターのもとに来ないようなまじないがおこなわれた。ユキヒョウの血の足跡を残した上にはおおきな石を載せる。人間が殺してはいない、まだ生きているということを示している。

[MH-44, MH46氏談 2016.8.20]

ユキヒョウ送りの儀②



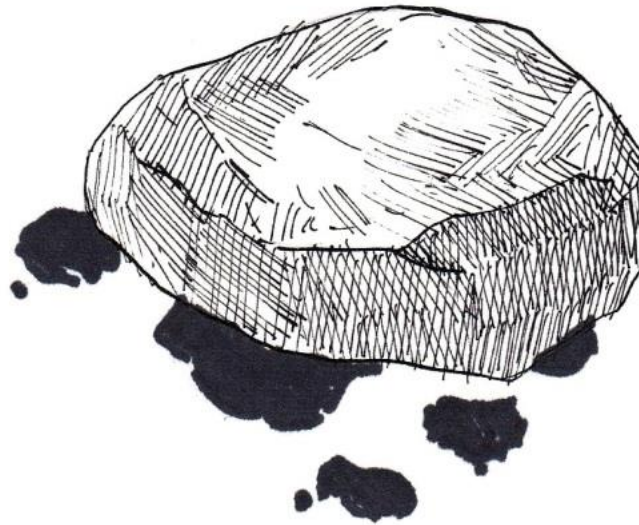
➡ ユキヒョウを道に迷わせるために、4本の脚を頭と逆の方向にねじっておく

ユキヒョウ送りの儀②



➡ ユキヒョウの脚に血をつけて、頭と逆方向となるように地面に足跡をつける

ユキヒョウ送りの儀②



➡ 血の足跡の上には大きな石が据えられる

～積み石とまじないによる「たたり」の回避行為～

ユキヒョウ送りの儀③

積石による儀礼

ユキヒョウを殺したあと、死んでいる場所の付近の地面に輪を描き、内側に白と黒の石を組み合わせて3個置く（白2つでも黒2つでもよい）。「*ene chuluu adil ongotei bolson uyd namaig irjideerei*」（この石が同じ色になったときに、私を食べに来てください）、つまり「石の色が同じになるまで、わたしを殺さないでください！」とまじないの言葉を述べた。白と黒の石はユキヒョウの斑紋を表しているとされる。

[MH-02 氏談 2016.8.20]

ユキヒョウ送りの儀③



- ➡ 白と黒の石積みは、ユキヒョウの斑紋を表しているとされる
- ➡ 地縛再現儀礼のバリエーションと思われる

【ユキヒョウ狩りの儀礼①】

「昔のハンターは狩猟にミルクを持っていき、ユキヒョウを殺したら口にミルクを流し込んだ。足裏にもミルクをかけることがあった」

[MH-01氏談 2016.8.13]



【ユキヒョウ狩りの儀礼②】

「ユキヒョウを殺したときには、自らの手をぎゅっと握って握りこぶしをつくることもあった。理由はわからないが、ユキヒョウの肉球を表しているのではないか」

[MH-54氏談 2016.8.20]

「ユキヒョウを殺すときは、モンゴルや地域で一番偉い人の名前（だれでもよい）を言った。自分の意思で殺すわけではないことを示した」

[MH-03氏の妻談 2016.8.20]

【ユキヒョウ狩りの儀礼③】

「（ユキヒョウ殺した後）は） お腹の脂肪で頭をくるんでおくこともあった」

[MH-30氏談 2016.8.13]

「（ユキヒョウ殺した後）は） 靴の中敷きでユキヒョウをたたくことがあった」

[MH-17氏談 2016.8.20]

「（ユキヒョウ殺した後）は） しっぽの先を切り落とす」

[MH-12氏談 2016.8.20]

【銃での狩猟方法】

「ユキヒョウは背後から撃つと狩猟者のほうを振り向く性質がある。銃撃後に狩猟者を向いて伏せたこともあった（とされる）。そのため、銃を撃ったところからはすぐに離れなければ、射撃した場所に襲い掛かってくる。」

[MH-01, MH-11, MH-47氏談 2016.8.20]

「けっして岩下から射撃してはいけない。ユキヒョウは絶命の瞬間、岩から飛び降りて襲い掛かってくる習性がある」

[MH-12, MH-15氏談 2016.8.20]

「ユキヒョウを殺すときは手負いにせずに一気に殺さなければならぬ。そして命をつなげば、射撃者にかならず復讐にくる」

[NH-11, MH-44, MH-48氏談 2016.8.20]

ユキヒョウ狩りの方法



➡ ユキヒョウは岩上から自分の全体重を乗せるように獲物を襲う

【罾での狩猟方法】

「他の狩猟対象とは異なり、ユキヒョウ狩りの際には、紙を乗せれば閉じるくらいの精度で罾を仕掛けなければならない。閉じる精度が低いと、手が全部が罾に入ってしまう。罾にかかったユキヒョウはあおむけにひっくり返り、すべての足を使って罾を蹴りはずしてしまう。罾の周りの土を掘って設置してはいけない。地面にそのままのせて仕掛ける。もっともよい捕まえ方は、指先が触れただけで罾が閉まり、肉球の先だけを罾で捕えられることが望ましい。肉球の先を捕えられると、爪が出て引っ込まなくなってしまうために、罾から逃れられなくなる」

[MH-01氏談 2016.8.20]

- ➡ ユキヒョウの罾猟には高い技術が求められた
- ➡ 罾による乱獲には限界があったと思われる（銃で仕留められていた）

【直接打撃による方法①】

「ユキヒョウを見つけたら、凍りきっていない河川の水の上に追い込んでゆく。こうした場所でユキヒョウの肉球が氷に触れると、氷とくっついて動けなくなる。足元が凍って身動きが取れなくなったら、近づいて行って棒などで殴って殺す方法があった」

[MH-22氏談 2016.8.13]

ユキヒョウ狩りの方法



ユキヒョウ狩りの方法



【直接打撃による方法②】

「ユキヒョウを狩猟するときは岩山の高い方へ追い込んでゆく。山の下の方へは行かせないように山下から追い立てる。ユキヒョウでも登れないような絶壁や岩山を登ろうと爪で引っかけて、危険な爪が擦り切れてなくなるまで山頂に向けて追立て、爪がなくなったときを見計らって殺していた」

[MH-40氏談 2016.8.20]

【直接打撃による方法③】

「しっぽをつかんで自分の胴体に巻き付けて、後ろから殴り殺す方法もあった（と言われている）」

[MH-22氏談 2016.8.13]

「1980年代にバイリン・アムで凍った河の方へユキヒョウを追い込んで動けなくなったところ、しっぽを体に巻き付け、足でユキヒョウの肝臓を蹴って殺した人がいた（とのことだった）」

[MH-25氏談 2016.8.20]

ユキヒョウ狩りの方法



【実猟実例①】

「ドロンノールでは1900年頃にシャマル銃で3頭のユキヒョウを殺したH0氏がいる。岩下から3頭のユキヒョウを見つけ、これらに向けて銃を撃ったところ、1頭目に直撃し、岩下に落ちかけて崖からぶら下がった。この落ちそうになったユキヒョウを、2頭目が出てきて、手で押さえて落下を防いでいた。H0氏がその2頭目も撃ったところ直撃し、崖下に落下しようとしたところ、3頭目が出てきて落ちかけている2頭を引きずり上げようとした。さらに3頭目も射殺したところ、3頭とも崖下に落ちて絶命した」

[MH-15氏談 2016.8.13]

【実猟実例②】

「1970～80年代にH7氏（ウルチュン氏）がユキヒョウ1頭を殺した。銃で撃ったところ、岩から落ちそうになり爪でぶら下がった。4本、3本、2本とひっかかった爪の数が減ってもこらえてぶら下がっていたが、最後の1本の爪で持ちこたえられず、岩から落ちて絶命した。このとき銃はカリアブル（TOZ-8）を用いた」

[MH-11氏談 2016.8.13]

「1980年代にバイリン・アムで凍った河の方へユキヒョウを追い込んで動けなくなったところ、しっぽを体に巻き付け、足でユキヒョウの肝臓を蹴って殺した人がいた（とのことだった）」

[MH-25氏談 2016.8.20]

【遭遇事例①】

「BB-08氏が1971年にホブドの病院に入院したときに、相部屋のカザフ人は2頭のユキヒョウと遭遇して襲われたために、ケガをして入院したと話していた。遭遇したときナイフしかもっていなかったが、2頭と応戦して大怪我を負った。ツアガン・ゴルの凍った河の上で格闘したとのことだった」

[BB-08氏談 2016.8.13]

➡ 遭遇事例①はユキヒョウ狩りの失敗のためと思われる

【遭遇事例②】

「故サンダク氏が1980年頃に狩りに行き、大岩の下で煙草を吸って休んでいたところ、上の方でうなり声があるので、みあげてみるとユキヒョウがすぐ岩上に伏せていた。急に動くと思われて襲ってくると思ったので、じっと動かず、結局朝まで岩下で煙草を吸って過ごした。明朝、着ていた上着を丸めて岩下に放り投げて気をそらそうとしたが、何も動じることはなかったので、そのまま退散した」

〔BB-10氏談 2016.8.20〕

➡ 遭遇した際に急な動きをしないという行動規範の出所

遭遇経験のオーラルヒストリー



➡ 遭遇した際に急な動きをしないという行動規範の出所

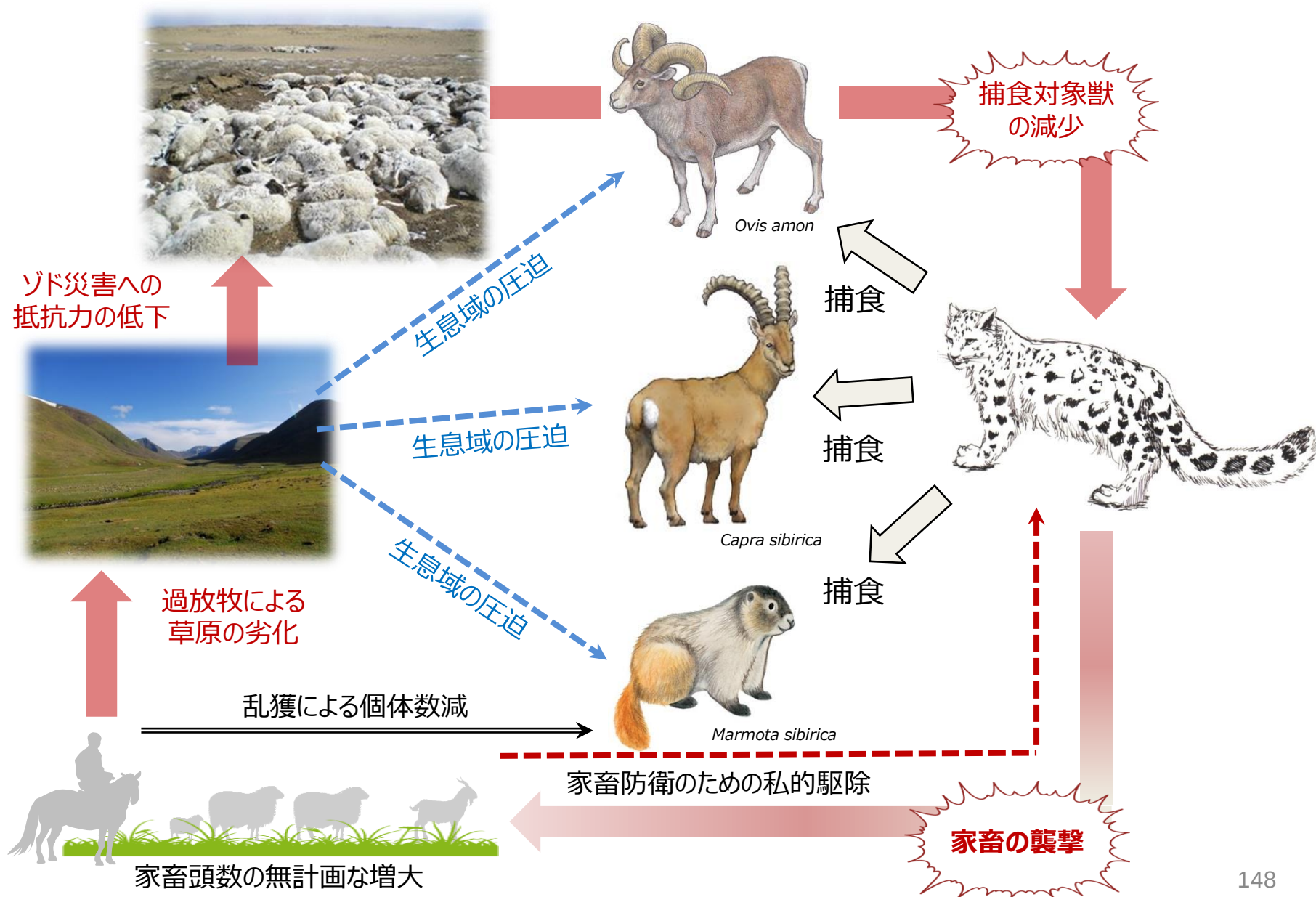
【遭遇事例③】

「ショールハイ（アルツアット）夏営地で2012年9月下旬、牛の集約中にホトのすぐ近くで成獣1頭、幼獣1頭を至近距離で出くわした。大人のユキヒョウと眼があってしまった。すると唸り声をあげたために、びっくりして後ずさりしたところ、岩のくぼみに倒れ込んでそのまま気を失ってしまった。その後目覚めたきはすっかり夜中になってしまっていた。その場で横たわりながら妻と子供の名を呼んだが、このときは酔っぱらってひどい頭痛がしていた。子供が救出に来て顔や腕を水で洗い、目が覚めたときようやく帰ることができた」

[MH-07氏談 2016.8.13]

-
- ➡ ユキヒョウが人間を襲った事例は聞かれなかった
 - ➡ 人間襲撃は「畏れ」の表象「神話」

まとめと考察：アルタイ山脈のユキヒョウを取り巻くマルチスピーシーズな関係性



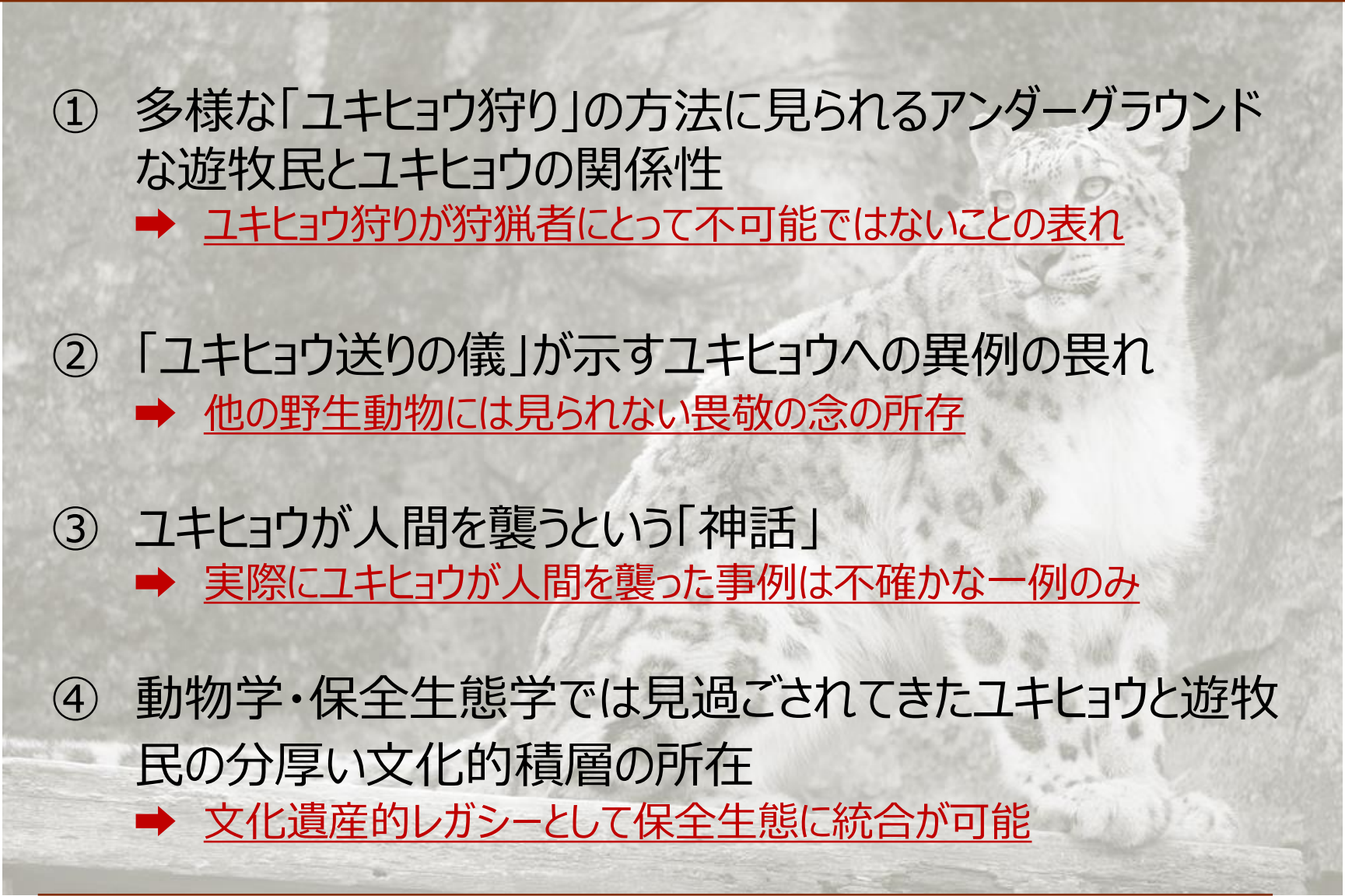
❖ ユキヒョウ棲息圏への放牧の自粛

❖ 家畜の計画増産と過放牧の抑制

❖ 夏季のマーモット“タルバガン”の乱獲禁止

❖ 文化資源としての民俗伝承の（再）付加価値化
アクシオロジー

❖ 獣害対策と保全生態への在来知の活用
エコ・ナラティブ

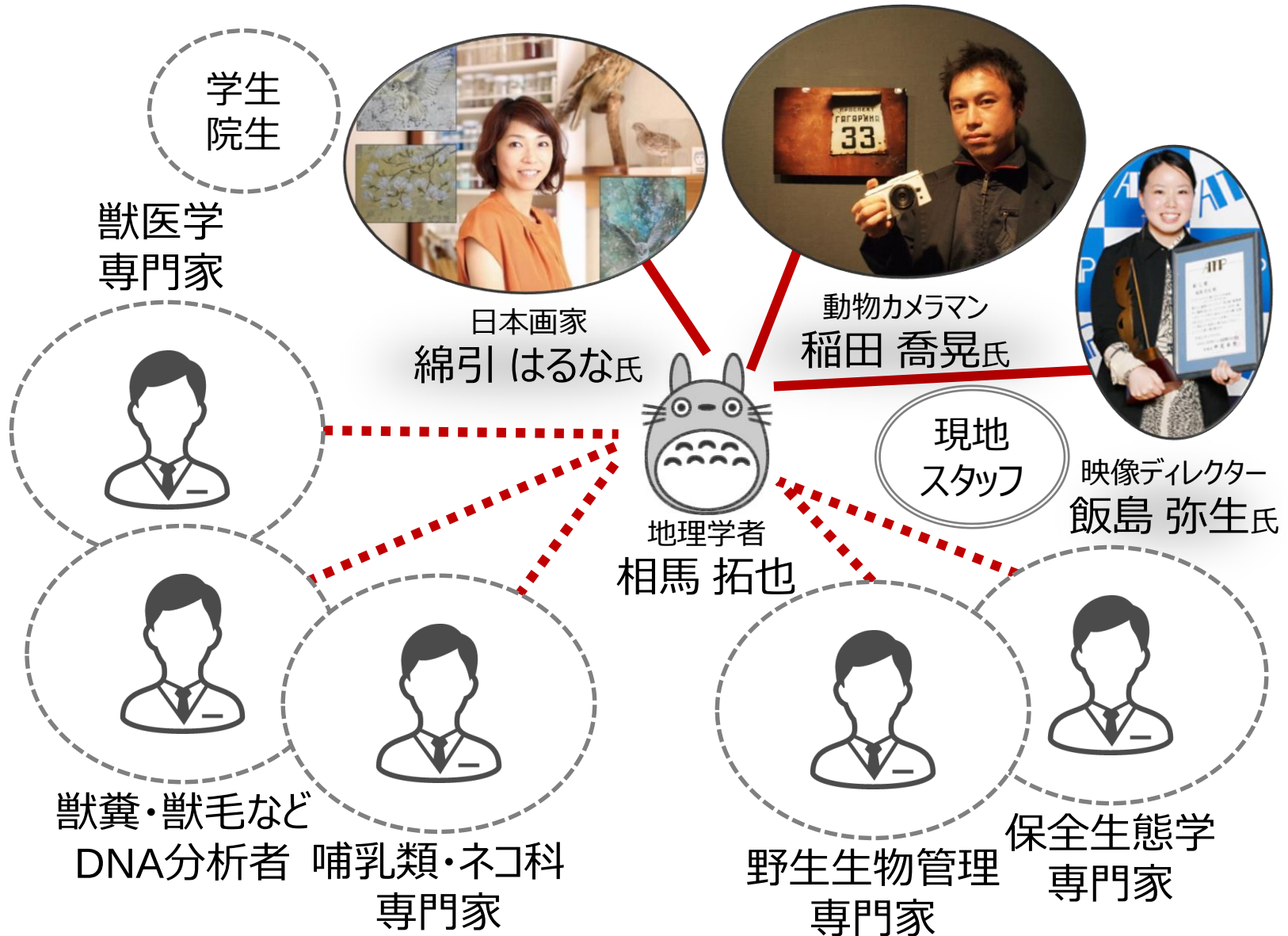
- 
- ① 多様な「ユキヒョウ狩り」の方法に見られるアンダーグラウンドな遊牧民とユキヒョウの関係性
 - ➡ ユキヒョウ狩りが狩猟者にとって不可能ではないことの表れ
 - ② 「ユキヒョウ送りの儀」が示すユキヒョウへの異例の畏れ
 - ➡ 他の野生動物には見られない畏敬の念の所存
 - ③ ユキヒョウが人間を襲うという「神話」
 - ➡ 実際にユキヒョウが人間を襲った事例は不確かな一例のみ
 - ④ 動物学・保全生態学では見過ごされてきたユキヒョウと遊牧民の分厚い文化的積層の所在
 - ➡ 文化遺産的レガシーとして保全生態に統合が可能

本研究は、以下の研究助成により実施されています

1. 代表者（相馬拓也）：日本学術振興会, 研究スタート支援
「極北系モンゴル遊牧民による極限環境下での環境適応戦略の実証的解明」
（課題番号：16H07274）2016年8月～2018年3月
2. 代表者（相馬拓也）：日本学術振興会, 基盤研究(C)
「西部モンゴル遊牧民による気候変動および極限環境への適応戦略の解明」
（課題番号：17K02047）2017年8月～2020年3月
3. 代表者（相馬拓也）：早稲田大学, 特定課題研究(A)一般研究
「アルタイ山脈のユキヒョウをめぐる生態観察、獣害対策、民俗伝承の複合型生物誌の研究」
（課題番号：2017A-064）2017年4月～2018年3月
4. 分担者（代表者：奥野克巳）：日本学術振興会, 基盤研究(A)
「種の人類的転回：マルチスピーシーズ研究の可能性」
（課題番号：17H00949）2017年4月～2021年3月



研究にご協力いただける方を探しています！



WIAS

早稲田大学高等研究所
Waseda Institute for Advanced Study

お知らせ

2017年11月30日に

イーグルハンター

『鷲使いの民族誌： モンゴル西部騎馬鷹狩文化の民族鳥類学』

がナカニシヤ出版より出版されます。



※雲南懇話会（第35回）2015年12月19日（土）「騎馬鷹狩文化の起源をもとめて」と題して発表
させていただきました



WIAS

早稲田大学高等研究所
Waseda Institute for Advanced Study

お知らせ

本日、茶話会会場にて

京都大学元教授 川喜田二郎 設立



ヒマラヤ保全協会

Institute for Himalayan Conservation (IHC)

の紹介ブースを設けさせていただきました。

これまでの植林活動、現地への国際協力、女性のエンパワメントなどの成果をご覧ください、ご支援いただければ幸いです。



WIAS

早稲田大学高等研究所
Waseda Institute for Advanced Study



ご清聴ありがとうございました!!
(Thanks!!)

お問い合わせ

早稲田大学 高等研究所 (WIAS)

相馬 拓也

E-mail: takuyasoma326@aoni.waseda.jp

Website: www.takuyasoma.jp

〒169-0051 新宿区西早稲田1-6-1 早稲田キャンパス9号館

TEL. 090-7218-8991/ 03-5286-2460

